

あしやすファン通信

2001年
(平成13年)
冬号
(第4号)

発行者：芦安ファンクラブ
山梨県中巨摩郡芦安村芦倉
1589-8
055-288-2531

大久保基金の会設立

昨年十一月十一日、南アルプスにおける遭難防止と救助活動を目的に「大久保基金」が設立された。一九九八年五月、北岳で消息を絶った大久保泰伸さん(当時(四一)、神奈川県藤沢市)の山への思いと、合計十回に渡る捜索に立ち会った御両親「譲さん(八一)、静枝さん(七七)」の気持ちに山岳関係者や地元警察が答えようと今回の基金が実現した。基金運用団体の「大久保基金の会」初代会長には清水准一氏(五〇)が選ばれた。

の後約二年間に渡り小笠原警察署、山岳関係者らが白根御池小屋周辺の樹林帯や小太郎尾根の捜索にあたったが何一つ手がかりはつかめなかった。そして、一九九九年十一月、県警ヘリコプター「はやて」は別の遭難者捜索飛行中に雪面に青く光る点を偶然に発見し、これが後に大久保さんのザックと判明した。雪解けを待つ捜索は再開されたが、遺体が発見されたのは八月になってからであった。遭難から発見に至るまでの二

一九九八年五月二日、北岳肩の小屋を目指して広河原山荘を出発した後、大久保さんの消息は途絶えた。そ

年三ヶ月、御両親は捜索のため

に芦安村に入り、終了すると捜索隊員全員に心をこめたお礼の手紙を出された。「息子を思う親の気持ちをひしひしと感じ、さらに我々の人生のお手本にしたいとおもわれるほどになりました。」と捜索の陣頭指揮にあたった青木可行氏「芦安村・総務課」は振り返る。

この御両親に感銘を受けた山岳関係者は大久保さんの名前を残そうと、遭難防止PR活動、遭難救助装備の充実、救助担当者若手人材育成を目的とした基金を思い立ち、今回の「大久保基金の会」設立となった。会長には清水准一氏、副会長には中村正利、森本聖治、小林賢、伊井和美の四氏が選出された。清水氏は「最近では遭難地点の予想が難しくなった。そのために

期成同盟会設立

二月一日、白根町桃源文化学館で峡西地方及び南巨摩郡十一町村の町村長、議員、地元住民代表と、来賓として中島参議院議員をはじめ、地元選出の県議会議員、知事代理の日原公営企業管理者等を招き「南アルプス周遊自動車道整備促進期成同盟会」の設立総会が開催された。この期成同盟会は、芦安村桃の木から早川町奈良田に新たな自動車道の開削の実現を願い発足

南ア周遊道路

事務局は芦安村役場(055-282111)。同基金の口座番号は山梨中央銀行白根支店 普通393419。

も地形に詳しい地元山岳救助隊の必要性が以前から議論されていた」と「大久保基金の会」の重要性を説いた。同会は山好きで、ある程度登山の経験を持つ会員を幅広く募集している。

一町村の文化的交流の促進、中央自動車道・中部横断自動車道・新山梨環状線道路との連結を目指した研究とロープ活動の奨励である。また、会長には清水芦安村長、副会長には辻早川町長がそれぞれ選任された。



芦安消防団記念フライト

去る一月七日、芦安小学校グラウンドで消防団出初式が行われた。今年には新世紀を迎える最初の年ということで、「出初式を一般の人々にも見てもらおう」と、消防団員によって「新世紀記念フライト」が企画された。この日は早朝より二〇〇名をこえる村民が集まり、希望者の中から高齢者や児童を優先に、ヘリコプターによる芦安村上空の遊覧飛行が行われた。ヘリコプターはなるべく多くの村民に自分の住んでいる村を見てもらおうと約二時間に渡り二十数回フライトした。「生まれて初めて上空から自分の住んでいる村を見るのができて良かった」と、村民が喜んだこの斬新な企画に、消防団長の清水美氏は「毎年救助訓練でヘリを使っていたので(出初式での)利用を思いついた」と語った。



二十一世紀の南アルプスを考える

(株)長田組土木技術部長・今澤伸次

一月十八日、「第一回南アルプス開山祭(仮称)」について、役場・観光協会・芦安ファンクラブによる合同の検討会が開かれた。役場から、これまでは役場と村営バス関係者のみの式典であったことが説明され、観光協会からは、「新緑祭り」や「紅葉祭り」のように村民や観光客が参加できる祭りにはしたいという意見がだされた。また、日程についても例年通りの七月一日では、富士山の開山祭と重なり南アルプスの存在が薄くなるという点で、もう少し早めるべきだとの声も聞かれた。従来の記念式典に加え、芦安ファンクラブからは、開山祭のイベントとして、記念登山(キタダケソウを見る会)、南アルプスの歴史展、谷間のコンサート(同時開催)、夜叉神太鼓の演奏の四つを提案した。また、写真や絵画の作品展、南アルプス賛歌(仮称)の発表などのアイデアもだされた。検討会では、多くの貴重な意見が寄せられた。その中のいくつかを紹介したい。開山祭の意義について

「日本の四季の移り変わりの中で、特に春には人々がその喜びを大いに表し、祭りが各地で盛大に行われます。南アルプスの開山祭は、冬の間閉ざされていた山が、春の明ける喜びを表すための明るい祭りになるとよいと思います。これが定着したら祭りの会場を村内に移して、村人みんなで喜べる祭になれば、開山祭の意味が出てくると思います。」

イベントの全国発信

「南アルプス国立公園の利用者数は年間四十五万人(平成八年)です。一年当たりの利用率は十二人で二十八箇所ある国立公園のうち二十七番目です。これは首都圏からの交通が便利であるにもかかわらず低い利用状況だと言えます。利用者を増やすためにはPRが必要で、今年は一世紀の始まりの年であるとともに、芦安村にとってウエストンが入山して百年目になる節目の年でもあります。先人に感謝する会や碑前祭など、全国に南アルプスを積極的にPRするイベントづくりを考えてみてはどうでしょうか。」

「合同祝賀祭や神社の祭りを通じて、未来を考えながら地域と密着し、外部との交流を積極的に行うようなイベントができればと思います。今回をスタートに、全国に南アルプスを売り出すことも検討したらどうでしょうか。派手でなくても実のあるイベントができれば効果があると思います。」

イベントの中身について

「冬の間、家の中で村の人々がしていたことに、わざわざ草履作りや炭焼きがあったと思います。開山祭は、こつしたものを発表する場にはしてほしいというが、子供たちの発表会、仮装、演劇など、春の喜びを演出する行事を行うのも良いと思います。これが定着してゆけば将来の開山祭を描く夢は広がりますね。」

「山に登れない人にもキタダケソウのよさを知ってもらいたいと思います。村の中で写真や絵画などを展示してはどうでしょうか。」

これらの提案に基づき、勝手ながら検討会の内容をまとめると、開山祭は「春の訪れを喜び、山の安全祈願と、芦安の魅力を発信する祭」と解釈できる。今回の検討会で開山祭の目指すところは固まった。役者は、南アルプスを愛する全ての人である。次は、開山祭という舞台をどのように演出するかが課題だ。多くの人に感動を与え、二十一世紀の南アルプスを考える輪が広がるような開山祭を目指したい。

検討委員会発足

発足した。一月二十日の第一回会合では、環境委員、村の関係者ら委員二十一名が参加

今年一月雪崩倒壊した白根御池小屋の新築について検討する。白根御池小屋検討委員(委員長・清水哲夫、副委員長・安村長)が

白根御池小屋再建

登山者の安全を守る 山小屋 親しみのある

候補地について比較検討を行った候補地には大樺沢二俣付近と倒壊した白根御池小屋付近の二地点があげられているが、建設に伴う動物への影響や登山者の利用状況を考慮して現在のところ二俣付近が有力視されている。四月半ばには候補地付近の雪崩の状況を調べるためヘリコプターによる空中視察を行い、五月には環境省富士五湖自然保護官事務所の中谷泰治保護官らによる現地踏査が予定されている。村ではこれらの調査の動向を見つめながら白根御池小屋再建の準備を整えている。

芦安ファンクラブに関する詳しいお問い合わせは下記まで 〒400 0241 山梨県中巨摩郡芦安村芦倉 1589 8 電話055(288)2531 芦安ファンクラブ事務局 「ペンションらんたん」大滝

芦・安・村・消・防・団

「若手の育成」を目指す

「ゴト」という音がして、目の前の家が流されていった。あの時は十日くらいぶつ通しで昼夜の別なくウシ(木を組んだ堤防)作りや道路脇の家の荷物を運び出した。りし

た。当時芦安消防団の班長として防災活動にあたって

いた清水美さん(五〇)は現在消防団長は昭和五十七年、各地に

大きな被害を出した台風のこと

をふりかえ

る。「当時はまだ消防団に入るこ

とが一人前になるための条件であ

るといっ

囲気が村には残っていない。みんな

そつするところが当たり前だと思っ

ていた」といっ

現在芦安消防団員は四三名、しかし村の消防条例の定める規約では、いざ有事の際に四七名は必要なのだといっ。最近村



の外へ通勤する人が多くなり、芦安での活動ができないとの理由で消防団への入団を希望する人は少なくなった。また、団員の高齢化も気になるところだ。今年で消防団長として八年目、述へ二十九年にわたって団員として活躍してきた清水さんの悩みである。

芦安消防団は、定期的に行わ

れる春・秋の火災予防運動や風水害対策協議会などの活動の他、三年に一度行われる「山梨県消防団員操法大会」や毎年行われる「山梨県消防団員ソフトボール大会」でも何度かの優勝、準優勝経験を持つ。また、芦安は南アルプスを有するため森林火災や山岳遭難救助などの特別な任務にも対し、活躍の場は広い。地域に根ざし村民一人一人の生命・身体及び財産を守るとともに、芦安村の財産である南アルプスの自然資源を守ることが消防団の重要な使命である。「近年、山林火災や家屋火災を一度も起こしていないことが誇りだ」と清水さんは語った。

一人の生命・身体及び財産を守るとともに、芦安村の財産である南アルプスの自然資源を守ることが消防団の重要な使命である。「近年、山林火災や家屋火災を一度も起こしていないことが誇りだ」と清水さんは語った。

芦安ファンクラブ定例会

毎月・第3木曜日

御気軽にご参加ください。

場所：ふれあい館(芦安小学校横)

時間：7:30 pm



撮影者・草地聡

タイトル・北岳夕照

心でみるもの

時を越えていま

観音経深谷

名取左衛門尉将監しようげんは、武田信虎の家臣であったが、故あって知人を頼り現在の芦安村大曾利部落に住んでいた。その日、将監は山で狩をしていた。すでに夕日が間の岳の向こうに沈んでしまったというのに、朝から何の獲物もなかった。ふと、あざみ沢に目をやった将監ははっとした。一頭の大鹿がいたのだ。岩陰を伝いながらそと近づいていったが、鹿は将監に気づきすぐに逃げ始め、急な崖を上へ上へと上っていった。将監は夢中で追いかけた。そしてついに、岩の陰から一矢で鹿を射止めたのである。

ところが、あたりを見廻すとすでに夜の気配で、切り立った薄暗い夜叉神峠の断崖にへばりついている自分に気がついたのである。見上げる夜叉神の山はあまりにも高く、下は断崖絶壁である。少しでも足を踏み外せば深い谷底へまっさかさまだ。仕方なく、将監は野宿することにした。やっとの思いで洞穴を見つけ、そこに潜りこんだ。

しかし、夜が更けてくるにじ

たがって、細い月にかすかに照らし出された辺りの様子が不気味だ。それに、どこからか狼の吠える声が聞こえてくる。一頭が吠えるのとそれにあわせるようにあちらからもうこちらからも狼の遠吠えが起る。将監には自分の匂いについた狼たちがそれを知らせあっているように思えた。そのうちに、この洞穴にやってくるのだろうか。そう思うと恐ろしくしてお経を唱えずにはいられなかった。そして、将監は一晩中「観音経」というお経を唱え続けたのであった。

翌朝、村に辿り帰った将監は、恐ろしかったその夜の話を村人に話した。それ以後、村人たちはその近くを通るときは「観音経」を唱えながら通るようになった。それゆえ、この谷のことを「観音経深谷」と呼ぶようになったのである。現在、南アルプス林道にはトンネルがたくさんある。長いものは夜叉神トンネル、弁天トンネルと続き、その次の観音経トンネルを抜け出たところから「観音経深谷」を眺めることができる。

歴史を物語る 芦安の地名

このやしき（殿屋敷）

字の如く殿と尊敬され、崇められた方が住んでいた屋敷からきた地名。時は戦国時代にさかのぼる。甲斐の名将武田信玄の父信虎に使えていた名取将監長信という武将が、忠義心が裏目に出て信虎との関係がこそっぱくなり、縁あって芦安村芦倉大曾利の台地に住み始めた。せどには上梅津沢が流れ、村を一望できる日当たりの良い場所である。知将であった将監は様々な文化的行事や民俗芸能を普及させ地域に貢献した。特に学問の神、天神様を奉り、石祠を建立し熱心に学問を奨励した。積雪期には住民のために学問を教え、若者の教養に努められた。生活を狩猟で支えていた彼がある日山道に迷い、狼の遠吠え、野狼の叫声、得体の知れない亡霊におびえ、救いを求めて観音経を唱えながら夜を明かしたというエピソードは観音経深谷という地名として今でも残っている。四〇〇年以上も昔、芦安の地域文化振興に貢献した名將将監は大曾利下平の大宝寺墓地中央の苔むした石祠の下で静かに眠っている。

*こそっぱい…こそぱい
*せど…家と裏の石積（裏山）との隙間の部分。瀬戸内の地形からきているといわれる。村中にも瀬戸河原の地名が残っている。

芦安ファンクラブ通信は年4回発行し、芦安村の活性化を目指す様々な提言をしてゆきたいと思えます。読者の皆様からの御意見はファンクラブの活動を有意義な内容にするために不可欠です。どうか、自由で遠慮のない声をお聞かせください。芦安ファンクラブに関する詳しいお問い合わせ、入会のご希望は下記まで。尚、年会費は1,000円、南アルプスと芦安村に夢を語ってくださる方でしたらどなたでも大歓迎です。

〒400-0241
山梨県中巨摩郡芦安村芦倉1589-8
電話055(288)2531
芦安ファンクラブ事務局「ペンションらたん」大滝